

## 令和五年度 卒業式 式辞

まず初めに、この度の能登半島地震により被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、1月22日から穴水中学校で学校を再開することができ、これまでご尽力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

三寒四温という言葉があります。厳しい寒さと、やわらかな温かさが繰り返しながら春になっていくという意味です。能登半島穴水町にも暖かな日差しが降り注ぐようになった今日の良き日、穴水町長、吉村光輝様をはじめ、多くの来賓の皆様と保護者の皆様のご臨席のもと、「第75回卒業証書授与式」を挙行できますことに心より喜びを感じます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。小中高の12年間、それぞれの成長に寄り添いながら、今このようにたくましく成長されたお子様の姿にさぞや感慨深いものがあるかと存じます。

本日、卒業証書を手にした34名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの顔を見ることができ、大変うれしく思います。本校での3年間の課程を修了した充実感と、新生活への期待を胸にした皆さんに、心から幸多かれとお祈りします。

思い返せば今から4年前、新型コロナウイルス感染症により我々の生活は一変しました。

学校は、臨時休業や行事の縮小など多くの影響を受けました。皆さんの中学校卒業式と高校入学式も、多くの制限の中で行われたのではないのでしょうか。

しかし今年度は、5月にコロナが第5類に引き下げられたこともあり、ほとんどの行事が行われ、皆さんのマスクなしの笑顔を見ることができ、大変うれしく思いました。

皆さんの高校生活はどのような3年間でしたか。

皆さんは多くの困難な日々の中、勉学と部活動の両立に励み、本校の校訓である「勤勉・良識・心身鍛錬」の精神のもと、学校行事や地域活動に全力で取り組みました。

この1年間、皆さんは最上級生としての役割を十分に果たしてくれました。少人数ながらも一人一人が力を発揮した部活動、高校野球夏の大会での全校応援、吹奏楽部の定期演奏会、書道ボーイズ&ガールズのパフォーマンスなどで、学校や地域に活気と明るさを取り戻してくれました。

特に8月の「穴高祭」では、1日目、ラベンダーホールでの学年毎の合唱大会、2日目、本校校舎での生徒会企画や模擬店などの計画から運営までを、生徒会執行部が中心となって行い、全校生徒が一つになって盛り上がる事が出来ました。また、数年ぶりに学校も公開し、訪れた同窓生、保護者や地域の方々にも楽しんでいただけたと思います。

こうして学校はほぼコロナ前の活動を取り戻し、「さあこれから新たな出発だ」と全校生徒が感じていました。

しかし、我々にまた新たな試練が訪れました。1月1日の午後4時10分、平穏な日常が一変したのです……

卒業生の皆さんへ、はなむけの言葉を贈ります。

「努力した者が成功するとは限らない。しかし、成功する者は皆努力している。」という言葉です。これは、ドイツの作曲家ベートーヴェンの言葉だと言われています。

私なりに例えて言うなら、「毎日1,000回素振りをした選手は必ず試合でホームランを打てるとは限らない、しかし、ホームランを打つ選手は皆何らかの努力をしている。」ということです。

皆さんには無限の可能性があります。努力が成果につながらないときもあります。そんなときには、「焦らず」、「腐らず」、「あきらめず」に、「負けない強さ」を持ってください。目標を掲げ、努力を続けてください。必ず明るい未来が待っていると信じて。

皆さんは今日、穴水高校を巣立ちます。3年後の令和8年度、本校は創立80周年を迎えます。その時には、皆さんも8千人を超える本校同窓会の一員として、母校を支えお祝いしてください。

結びになりますが、この3年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜った保護者の皆様と、地域の方々に厚く御礼申し上げるとともに、本日の門出を祝福いただきましたことに、心から感謝申し上げます、式辞といたします。

令和6年3月1日  
石川県立穴水高等学校  
校長 島崎 康一